

ダニエル書 - 第146号

預言の糸を解き明かす：最後の大統領、独裁体制、そして差し迫る日曜法

Jeff Pippenger

2024-03-19

私たちは、間もなく到来する日曜法へと至る歴史の中で、アメリカ合衆国の最後の大統領が専制者としての権力を与えられる時に存在する預言的な状況を特定している最中である。何事も真空の中で起こるわけではなく、地の獣の国民はトランプの評価についてはほぼ二分されている。彼の見解に共感する者は、彼がなぜ沼を一掃する必要があるのか、そしてトランプが独裁者の役割を引き受けないかぎりそれが事実上不可能である理由を容易に理解できる。最も強力な独裁者とは、独裁者が進めようとしている取り組みを国民の高い割合が支持している独裁者である。ヒトラーの台頭以前には、一斤のパンを買うのに手押し車いっぱい現金が必要だった。

ヒトラーはそれを一変させ、ドイツ人はその歴史の多くを認めたがらないものの、彼の政策は広く支持されていた。アメリカ合衆国および世界全体が直面している問題は、市民の間に区別を生み、いま線引きがなされつつある。アメリカ独立戦争から1798年までの時期は、十四万四千人の封印の時に対応する備えの期間を表している。愛国者法は、独立戦争の霊的な繰り返しの始まりを画した。イエスはいつも初めをもって終わりを示されるので、地の獣はアメリカ独立戦争から始まったゆえに、終わりもそれによって迎えるだろう。最初は文字通りのもので、最後は霊的なものである。

米国の南北戦争は文字通りの出来事であり、終末の時代に再び起こることになっている。それは最初の共和党大統領の登場を告げ、その人物は最後の共和党大統領を象徴する存在である。共和党は、長らく確立していた奴隷制擁護の民主党に対抗するため、奴隷制反対の党として誕生した。その政治的論争が南北戦争とリンカーンの大統領職を生んだ。したがって、最初の共和党大統領を南北戦争と切り離すことは不可能であり、最後の共和党大統領は、南北戦争の差し迫った前触れを受け継ぐことになる。イエスは自然界を用いて霊的世界を示した。竜の党の父は偽りの父であり、民主党の特徴は虚偽である。この戦術の典型的な例は、彼らが自分たちはマイノリティーに同情的な党だと主張することである。

偽預言者に気をつけなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は獐猛な狼である。あなたがたは彼らをその実によって見分ける。人は茨からぶどうを、またあざみからいちじくを集めるだろうか。同様に、良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはできず、悪い木が良い実を結ぶこともできない。良い実を結ばない木はみな切り倒され、火に投げ込まれる。だから、彼らはその実によって見分けられる。マタイによる福音書 7:15-20。

木の根は、その木がどんな実を結ぶかを決める。そして、民主党のルーツは奴隷制支持の立場であり、共和党のルーツは奴隷制反対の立場である。

主よ、私があなたに訴えるときにも、あなたは正しい方です。しかし、あなたの裁きについてあなたと語らせてください。なぜ悪しき者の道は栄えるのですか。なぜひどく裏切りを働く者たちは皆、安らかでいるのですか。あなたが彼らを植え、まことに彼らは根づきました。彼らは成長し、まことに実を結びます。あなたは彼らの口には近いが、彼らの心の奥からは遠いのです。エレミヤ書 12:1、2。

迫り来る内戦は、シスター・ホワイトの言うところの「金持ちたち」が、諸国の富を刈り取るために市場を支配し、その一方で貧しい者たちを踏みにじっている、という文脈に位置づけられている。

インド、中国、ロシア、そしてアメリカの諸都市で、何千人もの人々が餓死している。富裕層は力を持っているがゆえに、市場を支配している。彼らは手に入るものをすべて安値で買い占め、その後、大幅に値上げして売る。これは貧困層にとっては飢餓を意味し、内戦を招くことになる。『Manuscript Releases』第5巻、305頁。

リンカーンの歴史における内戦は文字通りのものであり、文字通りの奴隷制度に対処した。ドラゴンに触発されたグローバリストは、終末の時代に、中流階級を消滅させ、超富裕層のエリートと極貧の農奴だけを残すことを目指す取り組みに基づいた内戦を生み出している。社会的・経済的・宗教的自由を守っているのは中流階級であり、それが取り除かれると、封建制度の実施に対する歯止めがなくなる。フランス革命の主な成果は、封建制度を終わらせたことだが、グローバリストは今や中流階級を取り除くことでそれを再び押し付けようとしている。グローバリストの計画は主として、違法移民を洪水のように流入させて中流階級を覆い尽くすことに基づいており、それによって生産活動が低下し、賃金が下がり、国家の福祉制度が拡大する。

第二次世界大戦に至る時期、大恐慌のさなか、ローマ・カトリックの神父チャールズ・コグリンは、全米で数百万人の聴取者に届いたラジオ放送で名声を博した。彼の放送は、近年のラッシュ・リンボーに匹敵する影響力を持っていた。コグリンは、政治、経済、社会問題など幅広いテーマを論じる場としてラジオを活用した。彼は当初、フランクリン・D・ルーズベルト大統領とそのニューディールを支持していた。しばしば扇動的で物議を醸したコグリンのラジオ放送は、彼を米国政治で世論を二分する人物にした。大規模で熱心な支持基盤を持つ一方で、彼は過激な見解ゆえに各方面からの批判と非難にも直面した。

コグリンの当初の政治・経済・社会的見解はフランクリン・ルーズベルトに採用され、彼のニューディール政策の青写真となった。その政策は、アメリカ合衆国に、拡大の一途をたどる社会保障制度と福祉制度という災いをもたらした。彼のニューディール政策は彼の遺産の象徴となり、第二次世界大戦へとつながり、その後も続いた預言的なシナリオの一要素でもあった。「その実によって彼らを知るであろう。」ルーズベルトのニューディール政策が実施された結果、世界のどの国よりもアメリカ合衆国における大恐慌ははるかに長く続いた。

ルーズベルトは民主党員であり、したがって竜に靈感を受けたグローバリストであった。彼が導入したニューディール政策は、超富裕層と超貧困層から成る社会を作り出すための長期的な計画の一部だった。現代のバビロンのグローバリストの億万長者商人たちが、

彼らの考える「完璧」へとルーズベルトのニューディールを完成させるべく仕組まれた大規模な不法移民に資金を供給しているため、霊的かつ経済的な奴隷制はいまワープスピードで加速しており、南北戦争時代の文字通りの奴隷制はそれを象徴している。第三次世界大戦に直面する最後の大統領は、第二次世界大戦中の大統領が敷いた社会的依存のプログラムの危機にも直面することになる。啓示はこの事実を明らかにしており、また、終末の時代の指導者たちがその問題への対処法を知らないことも明らかにしている。

教育者や政治家の間でさえ、社会の現状の根底にある原因を理解している者は多くない。政権を握る者たちは、道徳的腐敗、貧困、窮乏、犯罪の増加という問題を解決することができない。彼らは、経済活動をより確かな基盤に据えようとむなしく努力している。もし人々が神の言葉の教えにもっと耳を傾けるなら、人々を悩ませる諸問題の解決策を見いだすだろう。

聖書は、キリストの再臨の直前における世界の状態を描写している。略奪と恐喝によって巨富を蓄える人々については、こう書かれている。「あなたがたは終わりの日のために宝を積み上げた。見よ、あなたがたの畑を刈り取った労働者の賃金で、あなたがたが不正によって差し止めたものが叫んでいる。また、刈り取った者たちの叫びは万軍の主の耳に届いた。あなたがたは地上で快樂にふけり、放縦に過ごし、屠殺の日のように自分の心を肥やした。あなたがたは正しい者を罪に定め、殺したが、彼はあなたがたに抵抗しない。」ヤコブの手紙 5:3-6。『証言』第9巻、13。

最後の大統領は「政権の手綱を握る」だろうが、「道徳的腐敗、貧困、ポーパリズム、増大する犯罪」の問題を解決することはできない。さらに「事業運営をより堅固な基盤に据える」こともできない。これらすべての問題は、最後の時代の銀行家と億万長者の商人たちに結びついている。「ポーパリズム」とは、地方政府や慈善団体が提供する救貧や福祉に依存する人々の状態を表すために用いられる語である。多くの社会では、ポーパリズムには社会的烙印が伴い、貧困を経験する人々が周縁化され差別される結果を招くことが少なくなかった。アメリカ史において「ポーパリズム」を生み出した計画は、本来、貧困に囚われた人々が自ら向上できるよう救済するために設計されたとされる計画である。だが実際には、そうした貧民を経済的奴隷状態に縛りつける政府福祉の仕組みを生み出したにすぎなかった。

第二次世界大戦の直後、国際連合は活動を開始した。これは、第一次と第二次という二度の世界大戦を通じて、第七の王国（国際連合）が地上の王座に据えられることを示す第二の証しとなった。第一次世界大戦は、その過程で採用された世界的な銀行制度の役割を示し、また、第二次世界大戦において示されたように、世界の銀行家や商人が封建制度への回帰を意図していたことを明らかにした。こうした一切の企図、すなわち世界統一政府、超富裕層が超貧困層を支配する経済体制、そして自らがふさわしいと見なした者だけに参加を許す世界統一の金融システムは、いずれも、七に属する第八の大統領と戦っている竜に由来する。

これらの要因によって示される論理は、問題解決への取り組みにおいて独裁的にならざるを得ないと感じるであろう大統領像を、明確に描き出している。私たちは、神の言葉が明らかにしている、地の獣の最後の大統領の歴史の中で展開することになる預言的環境を、単に指摘しているにすぎない。前稿では、彼女が日曜法の前に「一時的繁栄」が取り

去られることを指摘している『The Great Controversy』の一節に言及した。その箇所は終末の多くの預言的特質を明示しており、彼女が取り上げる諸点は、アメリカ合衆国において、ついで世界において、獣の像の試練の時に於いて成就を見る。彼女は、サタンが世界を取り込むために用いる二つの争点を、心霊主義と日曜神聖視であると特定している。サタンが用いるであろう癒しの奇跡に言及しつつ、彼女は我々の時代におけるもう一つの預言的課題を特定している。

霊魂不滅説と日曜神聖視という二つの大いなる誤りを通して、サタンは人々をその欺きの支配下に置くであろう。前者は心霊主義の土台を築き、後者はローマへの共感のきずなを生み出す。アメリカ合衆国のプロテスタントは、深い隔たりを越えて手を伸ばし、心霊主義の手を握ることに於いて先頭に立つだろう。彼らは深淵を越えてローマの権力と手を結び、この三重の連合の影響のもとで、この国はローマにならって良心の自由を踏みにじるようになるだろう。

心霊主義が現代の名ばかりのキリスト教をますます模倣するにつれて、欺き惑わし、絡め取る力はますます強まる。サタン自身も、現代の時勢に合わせて改心したかのように装う。彼は光の天使の姿で現れるだろう。心霊主義を媒介として、奇跡が行われ、病人は癒され、否定しようのない数々の驚異が行われるだろう。そして霊たちが聖書への信仰を公言し、教会の制度を尊重する姿勢を示すので、その働きは神の力の現れとして受け入れられるだろう。

自称のキリスト者と不敬虔な者とを隔てる境界線は、今やほとんど見分けがつかない。教会員は世が愛するものを愛し、世と連合する用意がある。サタンは彼らを一つに結び合わせ、皆を心霊主義の陣営に掃き入れて自らの大義を強めようと決意している。真の教会の確かなしるしとして奇跡を誇るカトリック教徒は、この奇跡を行う力にたやすく欺かれるだろう。真理という盾を投げ捨てたプロテスタントもまた惑わされるだろう。カトリック教徒もプロテスタントも世の人々も等しく、力のない敬虔の形を受け入れ、この結束のうちに、世界の回心と久しく待ち望まれてきた千年王国の到来をもたらず壮大な運動を見出すだろう。

心霊術を通して、サタンは人類の恩人として現れ、人々の病を癒し、より新しく、より高尚な宗教の信仰体系を提示すると称する。しかし同時に、彼は破壊者として働く。彼の誘惑は多くの人々を破滅へと導いている。不節制は理性を王座から引きずり下ろし、肉欲の放縦、争い、流血がそれに続く。サタンは戦争を喜ぶ。なぜなら、それは魂の最も卑しい情念を煽り立て、悪徳と血にまみれた犠牲者たちを永遠へと葬り去るからである。諸国民を互いに戦わせることこそが彼の目的である。そうすることで、人々の心を、神の日に立つための備えの働きからそらすことができるからである。

サタンがその頂点となる行為を成し遂げるのは日曜法の時であって、それ以前ではない。黙示録13章11節でアメリカ合衆国が竜のように語った後、13節でサタンが天から火を降らせるように見える。これはまたホワイト夫人が指摘していることでもある。

「神の律法に反して教皇制度の確立を強制する布告によって、わたしたちの国は義と完全に縁を切ることになる。プロテスタント主義が深い隔たりを越えてローマの権勢の手を取ろうと手を差し伸べ、さらに深淵を越えて心霊主義と手を結び、この三重の連合の影響のもとに、わが国がプロテスタントかつ共和政の政府としての憲法のあら

ゆる原則を否認し、教皇的な虚偽と惑わしの流布のための規定を設けると、わたしたちは、サタンの驚異的な働きがなされる時が来ており、終わりが近いことを知るのである。」『証言』第5巻、451頁。

日曜法の前、獣の像の試練の時、すなわち十四万四千人への封印の時であり、またすべての幻の成就が起こる時でもあるその期間に、偽りの癒しの奇跡を表す竜の力の現象が現れるだろう。黙示録では、バビロンの大淫婦はすべての国々を欺く者として描かれている。

また、灯火の光は、あなたのうちにはもはや二度と輝かない。花婿と花嫁の声も、あなたのうちにはもはや二度と聞こえない。というのは、あなたの商人たちは地の大いなる者たちであり、また、あなたの魔術によってすべての国々が惑わされたからである。黙示録 18:23

「sorceries」という語は、ギリシャ語の「pharmakeia」であり、「投薬」または「薬局」を意味する。この語はギリシャ語のG5332に由来し、それは「薬（すなわち、呪文をかけるための薬）」、薬売り・薬剤師・毒を盛る者を意味する。日曜法に至る終末の最後の時期において、八番目にして最後の大統領が引き継ぐ分断的な環境に寄与する問題の一つは、アンソニー・ファウチに代表される製薬業界の活動と、中国ウイルスである。

ファウチと中国は、いずれも竜の権勢の代表である。ファウチの関与の痕跡は、HIVの創出にまで遡ってたどることができる。億万長者ビル・ゲイツのような人物に代表される人口抑制は、モーセの時代に幼子を根絶しようとしたファラオの企て、およびキリストの時代に同様のことを試みたヘロデの企てにおいて顕れた属性である。人口の半数は中国ウイルスに欺かれ、いまなお、いかなるウイルスも防がないマスクを着用している人々の姿を見ることができる。

次の記事でこの研究を続けます。

サタンは自然界の諸要素をも用いて、備えのない魂を自らの収穫として刈り取る。彼は自然界の実験室の秘密を研究してきており、神が許されるかぎり、それらの要素を支配しようと全力を尽くす。彼がヨブを打つことを許されたとき、羊や牛の群れ、しもべたち、家、子どもたちが、瞬く間に、災いが次から次へと続いて一掃されたではないか。被造物を覆い、滅ぼす者の力から垣を巡らせて守っておられるのは神である。しかし、キリスト教世界はエホバの律法を侮ってきた。主はご自身が宣言されたとおりに行われる一地から祝福を取り去り、律法に背き、他人にも同じことを教え強いる者たちから、その保護を取り除かれる。神が特別に守られない者は皆、サタンの支配下に置かれる。彼は自らの企てを進めるために、ある者を優遇して繁栄させ、また別の者には災いをもたらし、人々に、それは神が彼らを打っているのだと信じ込ませる。

人々には彼らのあらゆる病を癒やすことのできる偉大な医師として現れながら、彼は病と災厄をもたらし、人口の多い都市が荒廃し廃墟と化すまでそれを続ける。今もすでに彼は働いている。海陸の事故や災害、大火、激しい竜巻や恐ろしい雹の嵐、暴風、洪水、サイクロン、津波、地震、あらゆる場所で、あらゆる形で、サタンはその力をふるっている。彼は実りつつある収穫をなぎ払い、飢饉と苦難が後に続く。彼は空気

に致命的な汚れを帯びさせ、何千もの人々が疫病で命を落とす。こうした災いは、ますます頻繁になり、いつそう破滅的なものとなる。滅びは人にも獣にも及ぶ。「地は嘆き、しぼみ衰え」「高ぶる民は…衰え果てる。地はまた、その住む者のゆえに汚されている。彼らが律法に背き、定めを変え、永遠の契約を破ったからである。」イザヤ書 24章4、5節。

そして、大いなる惑わす者は、神に仕える者たちがこれらの災いを引き起こしているのだと人々に信じ込ませる。天の不興を招いた階層は、神の戒めに従うことが背く者たちへの絶えざる戒めとなっている人々に、自分たちのあらゆる苦難の責任を負わせるだろう。人々が日曜日の安息日を犯すことによって神を怒らせているのだ、この罪のゆえに災厄がもたらされ、日曜日の遵守が厳格に強制されるまで終わらないのだ、そして第四の戒めの要求を掲げて、こうして日曜日への敬意を打ち壊す者たちは民を悩ます者であり、神の恩寵と現世の繁栄への回復を妨げているのだ、と宣言されるだろう。こうして、昔、神のしもべに対して唱えられた非難が、同じくらいもっともらしい根拠の上に繰り返されるのである。「アハブがエリヤを見たとき、アハブは彼に言った、『イスラエルを悩ます者はおまえか。』すると彼は答えた、『私がイスラエルを悩ましたのではない。主の戒めを捨て、バアルに従ったあなたとあなたの父の家がそうしたのだ。』」列王記上 18:17, 18. 虚偽の罪状によって民の怒りがかき立てられるとき、彼らは神の使者たちに対して、背教のイスラエルがエリヤに対してとったのと非常によく似た仕打ちをするようになるだろう。

「心霊主義を通して現される奇跡を行う力は、人間ではなく神に従うことを選ぶ者たちに対抗して、その影響力を行使するだろう。霊からのメッセージは、神が、日曜日を退ける者たちに自らの誤りを悟らせるために、彼らを遣わしたのだと宣言し、国の法律は神の律法として従うべきだと断言するだろう。彼らは、世界における甚だしい悪を嘆き、道徳の退廃した状態は日曜日の冒涇によって引き起こされているのだという宗教指導者の証言を支持するだろう。彼らの証言を受け入れることを拒むすべての者に対して、非常に大きな憤りがかき立てられるだろう。」『大争闘』 589、590.